

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 ことどもサポート教室「きらり」藤枝校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	②	職員の配置数は適切である	2	3		最低基準+1名の加配体制をとっているが、12月に非常勤職員が退職後、担当性個別療育の特性上、指導員一人が担当する利用者の数が多くなっている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5			
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5			
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		第三者評価委員会の設置検討があると聞いてはいるが、アンケート開催時において未設置であり、評価されるに至っていない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		毎月社内研修を行っている。地域で行われる研修の案内も回覧し、参加できる範囲で参加。会議で報告している。	
適切な 支援	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		

の 提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1		ガイドラインを全職員に周知しているが、積極的に活用しているとは言えない。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		マンツーマンの担当制だが、モニタリング報告・共有などを活用し、指導員全員で随時アドバイスを行っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		活動の中で「できた」「できない」の振り返りを活かし、毎回『今の状態に合った支援』を行っている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5		個別支援が中心ではあるが、2か月に一度のペースで集団活動も行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		担当性のため、役割分担の必要はないが、スケジュールや伝達等の確認は毎朝行っている。 複数の利用者を複数の指導員で支援する集団療育の前には必ず、打ち合わせを重ねてから開催している。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	2	毎日ではないが、毎週校舎内会議を開き、情報の共有に努めている。	上記、集団療育の反省は終了後に毎回行っている。 しかし、個別支援の日は毎日、終了時刻まで支援が入っており、毎日の終了後に振り返りを行う時間がない。 支援前に、個々で振り返る他、指導員同士で支援の方法を相談し、意見を出し合うこともある。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5			
	関 係 機 関 や	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	5		
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5			

保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				アンケート開催時において、対象施設ではない
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				アンケート開催時において、対象施設ではない
	㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1		
	㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3		
	㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5			
	㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		5		

保護者への説明責任等	㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	2		
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5			
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	3	地域で開催されるペアレントトレーニング等の案内を掲示や配布し、参加を促している。	開催日時・場所によっては参加が難しい保護者も多いが、問い合わせ等もあり、関心は高い。 今後も継続して掲示を行う。
	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		外国籍等、漢字が苦手な保護者にルビ付きの計画を作成している。 また、必要に応じて保護者へ通訳の手配を依頼し、支援や発達状況などの共通理解に努めている。	
保護者への説明責任等	㉚	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5			
	㉛	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		保護者の要望があった場合は、時間を設けて相談支援を行っている。	

	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	4		アンケート開催時において、保護者研修会は開催しているが、保護者会は未開催。	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5				
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	ホームページにて随時ブログを更新している。		
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	5				
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5				
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5			
	非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		防災訓練を毎月行い、予告・報告を玄関に掲示している。 市主催の感染症対策に毎年参加している。	
		④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5			
		④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	2	服薬の有無などは年1回今の情報を保護者に記入していただき、情報収集に努めている。 毎回の保護者送迎時に、様子について口頭確認を行っている。	アンケート開催時において、予防接種については、特に行っていない。
		④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	食品を扱うイベントの前には毎回必ず、アレルギーの有無を都度保護者全員に確認している。	集団預かり型の施設ではないので、基本的に飲食の機会がない。 アンケート開催時において、エビベン等を処方されている利用者がいない。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5				
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		年に1回、虐待防止の研修を行っている。		
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2		重要事項説明書に記載し、契約時に保護者へ説明をしている。 但し、アンケート開催時において対象者がいない。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：平成 年 月 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」藤枝校 保護者等数（児童数）11（配布時）回収数 5 割合 46%

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	4	0	0	1		
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	4	0	0	1		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	1	0	1		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	0	0	0		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	4	0	0	1		
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	4	0	0	1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4	0	0	1		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	4	0	0	1		
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	1	1	1		
保護者への説明等	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	4	0	0	1		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	4	0	0	1		
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	3	0	0	2		

	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4	0	0	1		
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	0	0	1		
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	1	0	2	保護者研修会などのお知らせは来ますが、スケジュールが合わないで参加出来ていません。	
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	4	0	0	1		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	4	0	0	1		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	2	1	0	2	ホームページをまだ見たことがないので、見てみます。	
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	5	0	0	0		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	5	0	0	0		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	0	0	1		
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	4	0	1	0	まだ始めたばかりだからか、行くと伝えると泣いて嫌がる。行ってしまえば、とりあえず楽しんでいる。	
	㉓	事業所の支援に満足しているか	4	1	0	0	子供に対して臨機応変に対応しているかわからない。	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。